

副産物情勢

2月8日

更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項目	内 容	備 考																							
内 臓	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月の成牛と畜頭数は、97.2千頭(前年比102.7%)となった。 内訳を見ると、和牛47.2千頭(前年比105.1%)、交雑牛21.3千頭(同 101.1%)、乳牛去勢13.3千頭(同 97.6%)であった。 令和3年1月の成牛と畜頭数は、速報値(1/29まで集計)で80.0千頭(前年比98.1%)と前年を下回った。 (独)農畜産業振興機構が1月27日に公表した牛肉の需給予測によると、2月の生産量は和牛が前年同月並みとなるものの、交雑種および乳用種で出荷頭数の減少が見込まれることから、前年同月をわずかに下回ると予測している。 3ヶ月平均(12~2月)について、出荷頭数・生産量ともに前年同期をわずかに下回ると予測している。 需要動向は、新型コロナウィルス感染拡大・緊急事態宣言の影響で全品目極端に動きが鈍くなり、特にホルス牛の原料は在庫が膨れ上がっている。 小腸、シマチョウの白物は季節要因や輸入物の代替で一定の引き合いはあるものの、赤物は焼肉の定番であるハラミも販売に苦戦していると聞く。 東京・大阪食肉市場は1月25日と畜分から10円/枝kgの値下げ改定を実施した。(昨年の緊急事態宣言発令時の価格水準になる) 	<p>1.東京市場内臓価格 単位:円/枝肉kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年11月10日</td> <td>35/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成28年6月6日</td> <td>40/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>9/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月 1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>7/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和3年1月 25日</td> <td>25/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> </tbody> </table> <p>※乳牛も同様25円/kg *豚正貫物</p>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg	平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg	令和2年7月 1日	35/枝kg	7/枝kg	令和3年1月 25日	25/枝kg	5/枝kg		
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																							
平成26年11月10日	35/枝kg	9/枝kg																							
平成28年6月6日	40/枝kg	9/枝kg																							
平成31年4月1日	45/枝kg	9/枝kg																							
令和2年4月20日	25/枝kg	5/枝kg																							
令和2年7月 1日	35/枝kg	7/枝kg																							
令和3年1月 25日	25/枝kg	5/枝kg																							
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月度全国の肉豚出荷頭数は1,519千頭(農林水産統計1/29公表 前年同月比102.7%、前月比104.6%)となった。 12月の全国地域別出荷頭数を前年同月比で見ると、北海道103.8%、東北102.0%、関東103.9%、北陸甲信越103.1%、東海109.7%、近畿96.7%、中四国101.1%、九州・沖縄101.1%となった。 	<p>2.大阪市場内臓価格 単位:円/枝肉kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛内臓</th> <th>豚内臓</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年11月10日</td> <td>35/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成28年5月30日</td> <td>40/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>平成31年4月1日</td> <td>45/枝kg</td> <td>5/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年4月20日</td> <td>25/枝kg</td> <td>3/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月 1日</td> <td>35/枝kg</td> <td>4/枝kg</td> </tr> <tr> <td>令和3年1月 25日</td> <td>25/枝kg</td> <td>3/枝kg</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛内臓	豚内臓	平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg	平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg	平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg	令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg	令和2年7月 1日	35/枝kg	4/枝kg	令和3年1月 25日	25/枝kg	3/枝kg			
価格改定年月日	牛内臓	豚内臓																							
平成26年11月10日	35/枝kg	5/枝kg																							
平成28年5月30日	40/枝kg	5/枝kg																							
平成31年4月1日	45/枝kg	5/枝kg																							
令和2年4月20日	25/枝kg	3/枝kg																							
令和2年7月 1日	35/枝kg	4/枝kg																							
令和3年1月 25日	25/枝kg	3/枝kg																							
<ul style="list-style-type: none"> 令和3年1月の全国と畜頭数は、速報値で1,397千頭(1/29まで集計)、前年同月比96.8%となっている。稼働日数では昨年より1日少ない19日となり、1日当たりの平均と畜頭数は速報値段階で73,542頭となっている。(前年は72,200頭/日) 農水省食肉鶏卵課令和3年1月27日付肉豚生産出荷予測によると、今後の出荷予測頭数は令和3年2月1,307千頭(前年同月比99%)、3月1,409千頭(同98%)、4月1,365千頭(同94%)、5月1,338千頭(同104%)となっている。 需要動向は、新型コロナウィルス感染拡大・緊急事態宣言の影響で外食の不振はあるものの、内食・中食メーカー需要で牛内臓ほど動きは鈍くなっていない。但し、外食業態の使用が多いレバー・直腸は市中仓库が重く、季節要因で堅調な白物の動きが落ち着けば各社の在庫は膨れ上がるが予想される。 東京食肉市場は1月25日と畜分から2円/枝kg、大阪食肉市場は1円/枝kgの値下げ改定を実施した。(昨年の緊急事態宣言発令時の価格水準になる) 																									
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月の輸入通関実績によると牛肉輸入量は全体で49.2千t(前年比92.7%、前月比99.7%)となった。 内訳は、チルドが23.6千t(前年比109.8%、前月比109.4%)、フローズンが25.6千t(同 81.1%、同 92.1%)となった。 チルド輸入量は前年度の日米貿易協定の発効による関税引き下げを見越した通関緩越などの反動により前年を上回り、フローズンは現地コスト事情も反映して米国・豪州などが前年割れとなり、全体として前年を下回る結果となった。 	<p>3.東京市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和牛)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成30年11月1日</td> <td>1,000/枚</td> <td>100/枚</td> </tr> <tr> <td>平成31年1月5日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月22日</td> <td>700/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>500/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月15日</td> <td>100/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月20日</td> <td>100/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮	平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚	平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚	令和元年7月22日	700/枚	10/枚	令和2年3月16日	500/枚	10/枚	令和2年6月15日	100/枚	10/枚	令和2年7月20日	100/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚
価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮																							
平成30年11月1日	1,000/枚	100/枚																							
平成31年1月5日	1,000/枚	30/枚																							
令和元年7月22日	700/枚	10/枚																							
令和2年3月16日	500/枚	10/枚																							
令和2年6月15日	100/枚	10/枚																							
令和2年7月20日	100/枚	2/枚																							
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																							
<ul style="list-style-type: none"> (独)農畜産業振興機構が1月27日に公表した牛肉の需給予測によると、チルド輸入量は北米からの入船遅れの影響や前年度の輸入量が多かったことから、1月、2月ともに前年同月をやや下回ると予測している。 フローズン輸入量について、1月はチルドと同様に北米からの入船遅れや前年度の輸入量が多かった影響により、前年同月をかなりの程度下回ると予測している。一方、2月は前年同月をわずかに上回ると予測している。 令和2年12月の冷凍輸入牛レバーは89.4t(前年実績なし・前月比193.2%)で、国別では米国52.0t、豪州31.4t、墨国6.0tであった。 冷凍輸入牛腸は843.8t(前年比78.2%・前月比64.1%)で、国別では米国608.3t、豪州50.2t、墨国71.8t、加奈陀113.3tとなった。 																									
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月の輸出実績は、48,850枚(前年比111.4%、前月比103.7%)で、前年・前月ともに上回った。輸出平均価格は1,427円/枚(前年比-625円、前月比+179円)で、4ヶ月連続で前月比がプラスに転じた。国別実績は、タイ23,240枚(前年比116.2%)、ベトナム13,540枚(同165.1%)、韓国7,730枚(同51.1%)、香港4,340枚(同803.7%)で、タイとベトナムが伸長した。一方、ウエットブルーの輸入は、14.0千枚(前年比56.7%、前月比211.8%)、牛大判皮は18.0千枚(前年比40.1%、前月比117.0%)となった。 海外情勢は主要用途の靴需要が低迷しているが、カーシート・家具用に回復の兆しがあるため、輸出価格は緩やかに上がっていくことが予測される。 国内情勢は百貨店・専門店の袋物(鞄等)が苦戦していることから、荷動きが回復するには少し時間がかかるだろう。 輸出価格が緩やかに回復している状況でも、未だに原皮輸出業者の経営は厳しいことが予想されるため、国内皮革産業が活発になる取組みが求められる。 	<p>4.大阪市場原皮価格 *交雑牛含む 単位:円/枚</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛原皮(和牛)</th> <th>豚原皮</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年1月28日</td> <td>1,300/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年7月16日</td> <td>1,000/枚</td> <td>30/枚</td> </tr> <tr> <td>令和元年8月15日</td> <td>1,000/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年3月16日</td> <td>800/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年6月22日</td> <td>300/枚</td> <td>10/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年7月27日</td> <td>300/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月28日</td> <td>10/枚</td> <td>2/枚</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮	平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚	令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚	令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚	令和2年3月16日	800/枚	10/枚	令和2年6月22日	300/枚	10/枚	令和2年7月27日	300/枚	2/枚	令和2年9月28日	10/枚	2/枚
価格改定年月日	牛原皮(和牛)	豚原皮																							
平成31年1月28日	1,300/枚	30/枚																							
令和元年7月16日	1,000/枚	30/枚																							
令和元年8月15日	1,000/枚	10/枚																							
令和2年3月16日	800/枚	10/枚																							
令和2年6月22日	300/枚	10/枚																							
令和2年7月27日	300/枚	2/枚																							
令和2年9月28日	10/枚	2/枚																							
<ul style="list-style-type: none"> 令和2年12月の輸出実績は、1,279,244枚(前年比110.1%、前月比124.4%)で、前年・前月ともに上回った。輸出平均価格は424円/枚(前年比+7円、前月比+36円)となった。国別実績は、タイ906.5千枚(前年比104.0%)、ベトナム222.6千枚(同135.6%)、韓国51.2千枚(同93.3%)、カンボジア64.1千枚(同105.4%)、香港34.8千枚(同331.4%)、フィリピン・台湾・ミャンマーは実績なし。 世界的な靴需要は伸び悩んでいるが、主要用途の靴ライニング用等でコロナ以前の引合いがあり、堅調な荷動きをしている。 1月の情勢記事において「輸出価格が回復傾向なことから東京食肉市場は原皮価格の改定(値上げ)を検討しているようだ。」と記載いたしましたが、事実誤認であることが判明いたしましたのでお詫びしてこの文面を削除させていただきます。 																									
<ul style="list-style-type: none"> 1月渡しの国産食用加工油脂向け豚脂は80円/kg、牛脂は95円/kgと2ヶ月連続で据え置きとなった。 コロナ感染拡大の影響で外食向け需要は停滞し、ラード(豚脂)出荷は大幅に減退している。加工油脂各社の在庫は依然として重く、タンク繰りに苦戦しているようだ。 牛脂は大手ファーストフードがコロナ禍でも堅調に推移してきたが、ここにきて需要が失速し、相場改定(値下げ)の可能性があると聞く。 12月マレーシア産バーム油相場は、119円(前年+25円、前月+14円)と8年超ぶりの高値で推移している。要因は①減産(ラニーニャ現象による多雨、コロナ影響による農園労働者不足)、②シカゴ大豆・大豆油相場の高騰である。11月生産量は前月比13.5%減少し、月末在庫は160万トン台を割り込み、2017年6月以来の低水準である。 12月の関東飼料用油脂は74円/kgと前月・前年とも同様であった。工業用油脂は45円/kgと前月・前年とも同様であった。 11月のUCオイル(ローリー)飼料用の関東標準価格は、前月・前年と同様の63円~66円/kg辺り。 	<p>5.油脂価格(食用向け) 単位:円/kg</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>価格改定年月日</th> <th>牛脂</th> <th>豚脂</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成31年3月11日</td> <td>85</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年2月1日</td> <td>90</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年8月1日</td> <td>95</td> <td>95</td> </tr> <tr> <td>令和2年9月1日</td> <td>95</td> <td>85</td> </tr> <tr> <td>令和2年11月1日</td> <td>95</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	価格改定年月日	牛脂	豚脂	平成31年3月11日	85	95	令和2年2月1日	90	95	令和2年8月1日	95	95	令和2年9月1日	95	85	令和2年11月1日	95	80						
価格改定年月日	牛脂	豚脂																							
平成31年3月11日	85	95																							
令和2年2月1日	90	95																							
令和2年8月1日	95	95																							
令和2年9月1日	95	85																							
令和2年11月1日	95	80																							